



**Q9**

**学習活動を工夫するポイントは、どのようなものですか。**



**A** 音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるに当たって、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることができる学習活動を適切に位置付けることがポイントとなります。

以下の2点を例に、学習活動を工夫しましょう。



目的を明確にした音楽活動を伴った学習活動を設定する。

教科としての音楽を学習するに当たって、音楽活動が伴うのは大前提です。その音楽活動は、音楽科で育成を目指す資質・能力を身に付けるために大切なものですので、音楽活動を伴った学習活動の目的を明確にしましょう。

◆曲想と音楽の構造との関わりについて学習する場面で

**赤とんぼ**

赤とんぼの旋律を手拍子でリズム打ちして強弱を表してみましょう。  
どのくらいの強さがふさわしいのか、曲想をイメージしながら考えてみましょう。



歌唱での学習では、歌唱で表現するだけでなく、旋律を手拍子でリズム打ちしながら歌ったり、強弱を表したりする学習活動も効果的です。手拍子で強弱を表す学習活動の際には、教師の発問もポイントとなります。例えば、  
「1拍目の *p* は、どのくらいの強さがふさわしいかな？」  
「4小節目の *crescendo* と *decrescendo* の間は、どのくらいの強さがふさわしいかな？」  
などと問い掛けると、生徒は「赤とんぼ」にふさわしい強弱の表し方について考えることができます。



学習形態を工夫する。

生徒の学びを深めるために、学習内容や学習活動を踏まえた学習形態を設定することがポイントです。学習形態には一斉、グループ、ペア、個人などがあります。学習内容や学習活動のねらいに沿って適切に位置付け、そのねらいを生徒と共有することが大切です。そして、その学習形態を指導と評価の計画に明記することで、見通しをもって授業を進めることができます。

対話的な学びを実現するためには、何のために話し合いをするのか目的を明確にする必要があります。そのために、話し合いをする必然性のある問いの設定がポイントとなります。生徒が話し合いをする必然性を実感すれば、おのずと対話的な学びの実現につながるはずで、題材の中で、全ての時間に話し合い活動を取り入れなければいけないということではありませんので、対話を必要とする学習活動をどこに位置付けるかについて吟味し、設定しましょう。

参考

- ⇒はじめに：音楽科の学習における「主体的・対話的で深い学び」とは、どのようなものですか。
- ⇒Q1：「音楽的な見方・考え方」とは、どのようなものですか。